

26年1月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成25年 12月20日 ~ 26年1月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight.D.I.

品目		26/1月	2月	3月
入荷動向	国産材	10.0	40.0	0.0
	外材	16.7	8.3	16.7
在庫動向	国産材	30.0	10.0	10.0
	外材	8.3	0.0	8.3

国産材ラミナの入荷は増加傾向で推移、外材は1,2月の増加が3月には減少に。
国産材ラミナの在庫は1月の減少が、2,3月は増加に、外材は、1月の減少が2月の横ばいを経て3月には減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight.D.I.

品目	26/1月	2月	3月
国産材	25.0	16.7	0.0
欧州材	33.3	33.3	33.3
その他	50.0	0.0	0.0

国産材及び欧州材ラミナの購入価格は当面強含みないし強保合で推移するが国産材については3月には横ばいに、その他は1月の強含みが2,3月には横ばいに。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)・入荷は12月も発注量に対し80%程度で未だ厳しい、在庫は12月中旬以降の北海道からの増加を見込むも未だ改善は見られない、12月比で横ばい。

- ・入荷は、年末納期予定分が1月納入となった。生産量が増えた分ラミナ在庫は減。
- ・入荷量は横ばい、来月以降は多少増える見込み。フル生産しているが在庫は減少傾向。

・
・
・

(ラミナ価格動向)・昨年8月から12月までで約12%の価格上昇、今後も丸太不足が解消されない限り、価格も強含みと見込む。

- ・欧州材はユーロ単価が円安のまま行くとラミナ購入価格は更に上昇する。
- ・国産材は高止まり、外材は1月積みより多少UPする見込み、為替次第。

・
・
・

26年1月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
生産動向	国産材	10.0	10.0	10.0
	WW集成管柱	12.5	12.5	0.0
	R W集成平角	30.0	0.0	10.0
	米マツ集成平角	0.0	25.0	25.0
	WW集成平角	0.0	0.0	50.0
出荷動向	国産材	25.0	16.7	16.7
	WW集成管柱	12.5	12.5	12.5
	R W集成平角	30.0	0.0	10.0
	米マツ集成平角	25.0	25.0	25.0
	WW集成平角	0.0	0.0	0.0

国産材集成材の生産は1月の増加から2,3月には横ばいに、WW管柱は1,2月の増加が3月には横ばいに、RW平角は1月の増加が3月に向けて減少に、米マツ平角は1月の横ばいが2,3月には減少に、WW平角は1,2月の横ばいが3月には増加に。

国産材及び米マツ平角の出荷は減少傾向で推移、WW管柱は1,2月の増加が3月には減少に、RW平角は1月の増加が3月に向け減少に、WW平角は横ばい推移。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/1月	2月	3月
スギ集成管柱	8.3	16.7	0.0
ヒノキ集成柱	25.0	50.0	25.0
ヒノキ集成土台	25.0	25.0	25.0
カラマツ集成土台	33.3	16.7	16.7
WW集成管柱	25.0	37.5	37.5
R W集成平角	25.0	50.0	12.5
米マツ集成平角	25.0	0.0	0.0
WW集成平角	50.0	50.0	50.0
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	50.0	0.0	0.0

スギ管柱は1,2月のやや強保合が3月には横ばいに、ヒノキ柱、カラマツ土台、WW管柱、RW平角及びWW平角は強含みないし強保合、ヒノキ土台は1,2月のやや強保合が3月にはやや弱保合に、米マツ平角及びカラマツ平角は1月の強含みないし強保合が3月には横ばいに、米ヒバ土台は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)・生産は、消費税の駆け込みや木材利用ポイント等により需要は引き続き堅調、但し原木不足から必要量のラミナ確保できず、フル操業するもの生産効率の悪化等により生産量が伸び悩んでいる。出荷は、原木不足で必要量のラミナ確保できず、納期遅延の慢性化、新規受注を見合わせざる得ない、受注残の消化も思うように進んでいない。需要は引き続き堅調で原木不足が解消しない限りこの状態は当面続くと考えられる。

・生産は、年末・年始分の需要が増えたため増産。出荷は注文増加、荷動き良し。
・当面フル生産を継続、出荷は冬期のため需要の減少が見られる。翌月より消費税増税前の駆け込みが予想される。

(構造用集成材の出荷価格)・需要UPに伴い、価格上昇。

・原材料の価格に伴って販売価格も増減する。外材は軒並み上昇。